

## 論 文 要 旨

# Efficient Use of Diagnostic Imaging and Objective Evaluation of Work that Reflects Patient Condition

信 太 圭 一

日本は少子高齢化が急速に進み、医療費抑制が喫緊の課題となっている。今後、地域の病院は機能分化が求められ、限られた医療資源の集中化、有効活用が必要となり、画像検査装置などの高額医療機器を効率よく使用することが重要である。本研究は病院情報システムに蓄積されたデータの二次利用として、患者状態に応じた検査時間と人的コスト算出によるツールを開発し、高齢社会に対応した安全な撮影検査の確立と労働環境改善を目指した。病院情報システムに蓄積された患者状態を把握する項目を利用し患者状態により分類した。頭部単純 CT の検査時間を算出し、検査時間の係数化、ならびに人的コスト係数化を行った。頭部単純 CT 一回当たりの平均検査時間は  $5.82 \pm 3.83$  分であり、担送の自由度 I が  $6.59 \pm 4.27$  分と検査時間の延長があった。人的コストは担送の自由度 I と比較すると、独歩は約 3 分の 1 であった。患者状態によって同一検査でも検査時間、人的コストの消費が異なり、輸送区分、特に自由度を参照することで検査時間の予測精度が高くなる。さらに人的コストの係数化は業務の客観的評価に対する指標になる。